

高等学校 地理歴史科(日本史B) 学習指導案

期 日 平成21年10月29日(木)
会 場 佐賀県立致遠館高等学校 社会科教室
対 象 3年2, 3組日本史B選択者
(男子18名 女子19名 計37名)
授業者 佐賀県教育センター所員 酒井 成海

授業の概要

本講座授業のテーマは、単元の核となる人物の人物像に迫り、その人物がかかわった歴史的事象について考察させる授業です。人物を身近に感じられるように様々な資料を活用して、そこから分かりづらい経済分野にも生徒が興味・関心をもって取り組める授業を提案します。

1 単元名 金解禁と昭和恐慌

2 単元設定の理由

昨年9月の“リーマン・ショック”から1年が経過したが、今日でもなお、その影響は続いている。今回の大不況の下で、政権交代という大きな変化が起きたのと同様、これまでも恐慌を契機として日本社会の変化はたびたび見られた。その代表的なものが昭和恐慌である。ここでは、金解禁を断行した浜口雄幸内閣と、未曾有の大恐慌となった昭和恐慌にスポットを当てて、それらの背景について考察させたい。

授業を行うクラスは、3年生文系の地理、世界史との2クラス同時展開の構成であり、生徒たちは教師の声に熱心に傾聴し授業に臨んでいる。基礎的・基本的な事項を再確認しながら、学習内容に対しての理解をより一層深めさせたい。

生徒たちが苦手としやすい近代経済史を、浜口内閣の代表的経済政策である金解禁と昭和恐慌を軸に学習していく。1920年代のほぼ慢性的な不況状態を打開すべく、浜口雄幸内閣は、井上準之助大蔵大臣を中心に経済政策を行った。結局は、昭和恐慌、浜口首相の狙撃事件、満州事変、後継の若槻内閣崩壊という形で、金解禁政策は終焉を迎えるが、その一連の流れを理解させたい。また、金解禁政策を理解する上で、金本位制に対する理解が不可欠であるため、この点に留意して授業を進めていきたい。

3 単元の目標

浜口雄幸と井上準之助の二人によって進められた金解禁を中心とする経済政策について、多角的な視点で考察させ、歴史的な事象に様々な見方や考え方があることを理解させる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
・第一次世界大戦後の国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係などに対する関心と現代に通じる課題意識を高め、国際社会における日本の立場などを意欲的に追究している。	・第一次世界大戦後の度重なる経済不況、対外政策の推移、各政策が社会・経済に及ぼした影響から課題を見だし、地理的条件ともかかわらせて多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	・第一次世界大戦後の世界的な経済の混乱、各政策が社会・経済に及ぼした影響について、文書や新聞などの文献、統計資料、絵画、音声などの諸資料を活用して、歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・浜口内閣の政策に関する基本的な事象、及び昭和恐慌が社会・経済に及ぼした影響、国民の浜口内閣に対する視線などについて、国際社会における日本の立場と関連付けて総合的に考察し、それらを知識として身に付けている。

5 単元の指導計画（全2時間）

- (1) 1920年代までの、金本位制度の変遷と、日本の経済状況… 1時間
- (2) 金解禁と昭和恐慌……………本時

6 本時の目標(2/2)

- (1) 浜口雄幸首相、井上準之助蔵相の金解禁を中心とした経済政策について、そのねらいを考察し、金解禁を目指した理由を理解する。
- (2) 金解禁断行から昭和恐慌、そして金解禁の終焉までの一連の背景の流れとして理解する。
- (3) 1930年代の日本における浜口内閣の役割について、総合的に考察することができる。

7 本時の展開

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価
導入	◇ 昭和恐慌はなぜ起きた？	○ 昭和恐慌の原因が、世界恐慌の波及と、金解禁(井上財政)にあることを確認する。	
展開	<p>◎ 浜口内閣(立憲民政党)は、なぜ金解禁を行ったのか</p> <p>1 1920年代の日本の状況</p> <p>(1) 政治面</p> <p>ア デモクラシー沸騰(普通選挙法等)</p> <p>イ 憲政の常道(政党政治)</p> <p>ウ 軍部、枢密院からの圧力</p> <p>(2) 経済面</p> <p>ア 恐慌の連続(戦後・震災・金融)</p> <p>イ 日本銀行の救済によるインフレ、企業整理できず</p> <p>ウ 外国為替市場は動揺と下落</p> <p>(3) 外交面</p> <p>ア 世界主要国としての地位(国際連盟常任理事国)</p> <p>イ 欧米との協調(ワシントン海軍軍縮条約、パリ不戦条約)</p> <p>ウ 中国に積極外交(山東出兵、済南事件等)</p> <p>2 金本位制に対する世界の動き</p> <p>3 浜口雄幸の所信表明演説</p> <p>4 金解禁の目的</p> <p>(1) 世界経済の潮流に日本を戻す</p> <p>(2) 外国為替相場の安定</p> <p>(3) 経済界の抜本的整理</p> <p>(4) 浜口内閣(民政党)としての意地</p>	<p>○ 政治、外交、経済の3つの側面について、</p> <p>① 個人ワークシートに記入させる</p> <p>② 隣の生徒と意見交換させる。</p> <p>③ 数名の生徒を当てながら、それぞれ確認していく。</p> <p>○ 政治面では、政党政治が行われる一方、軍部や枢密院の圧力に苦慮していたことを確認する。</p> <p>○ 経済面では、度重なる恐慌による慢性的な不況の中で、日銀救済が行われ、財政が膨張していたことを確認する。</p> <p>○ 外交面では、国際協調(国際連盟常任理事国やワシントン海軍軍縮条約等)の反面、積極政策による欧米からの信用失墜等があったことを確認する。</p> <p>○ 主要国の中で日本だけ復帰できずにいる理由を確認する。</p> <p>○ 空欄補充で演説文を完成させ、浜口の考えを理解させる。</p> <p>○ 演説内容と資料を基に、多角的な視点から金解禁の目的について理解させる。</p> <p>○ (4)については、まとめて触れる。</p>	<p>◎ 金解禁の目的について、総合的に考察することができる。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>(観察・ワークシート)</p> <p>◎ 金解禁の目的について理解している。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>(観察・ワークシート)</p>

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価
展 開	◎ 金解禁はどのように進められ、どのように終焉を迎えたか		
	5 緊縮政策の実施 …官吏減俸(撤回), 国民へ節約奨励, 緊縮予算 6 金解禁の断行(1930. 1. 11) (1) 旧平価での解禁…円の切り上げ (2) 世界恐慌の中での解禁 →輸出の不振, 価格の暴落 → 昭和恐慌 7 金解禁政策の終焉 (1) 浜口雄幸狙撃事件(1930. 11) (2) 重要産業統制法(1931. 4) →経済統制で, カルテル結成容認 (3) イギリスの金輸出再禁止(1931. 9) →財閥の円売りドル買い (4) 満州事変勃発(1931. 9) →軍部の台頭へ (5) 若槻民政党内閣総辞職(1931. 12) →犬養政友会内閣…金輸出再禁止 8 1930年代の日本	○ 正貨の確保, 紙幣整理, 円高が背景にあることを確認する。 ○ 実相場である新平価ではなく, 円の切り上げとなる旧平価で解禁した理由を確認する。 ○ 世界からの視点で輸出不振を確認する。 ○ テロによる政党内閣への攻撃の端緒となったことを確認する。 ○ 産業合理化をねらいとしたものだが, 財閥の巨大化を助長したことを確認する。 ○ イギリスの金輸出再禁止が日本に与えた影響を確認する。 ○ 軍縮も危機に陥ったことを確認する。 ○ 管理通貨制度に移行し, 結果的に金本位制に戻ることはなかったことを確認する。 ○ 金輸出再禁止後の政治, 外交, 経済について概観する。特に, 世界に先駆けて恐慌を脱出できた側面に産業合理化があることをおさえる。	◎ 金解禁実施から再禁止までの一連の流れを理解している。 【知識・理解】 (観察・ワークシート)
ま と め	◎ 浜口内閣について、現在と比較しながら検証してみよう		
	9 浜口内閣の金解禁への想い 10 現代からみた浜口内閣	○ 金解禁を最大の公約とした民政党にとって, 再禁止の選択肢がなかったことを確認する。 ○ 経済政策が失敗に終わった浜口内閣が, 国民から支持を得ていたことを確認すると同時に, 現代社会と対比しながら, 経済政策の難しさ, 決断の難しさを考察させる。	◎ 浜口内閣の政策について総合的に考察している。 【思考・判断】 (観察・ワークシート)

8 本時の評価規準

◎ 知識・理解

- 金解禁，昭和恐慌から軍部の台頭までの一連の過程について背景を踏まえて理解できたか。

◎ 思考・判断

- ① 浜口内閣がなぜ金解禁を行ったのか，その目的について考察できたか。
- ② 浜口内閣の果たした役割について，多角的・多面的な視点で考察できたか。

9 使用教科書

- ・山川出版社『詳説日本史改訂版』

10 使用教材

- ・浜島書店『新詳日本史』
- ・第一学習社『最新日本史図表』
- ・第一学習社『詳録新日本史史料集成』
- ・浜島書店『世界史詳覧』
- ・『佐賀新聞』
〔1929(昭和4)年11月19日付け，1930(昭和5)年2月18日付け，2008(平成20)年9月17日付け〕
- ・『大阪毎日新聞』〔1929(昭和4)年11月19日付け〕
- ・山川出版社『音の日本史』

11 参考文献

- ・中村 隆英 著 『昭和恐慌と経済政策』 講談社学術文庫
- ・大門 正克 著 『日本の歴史15 戦争と戦後を生きる』 小学館
- ・川田 稔 著 『浜口雄幸ーたとえ身命を失うともー』 ミネルヴァ書房
- ・城山 三郎 著 『男子の本懐』 新潮社
- ・吉川弘文館編集部編 『近代史必携』 吉川弘文館
- ・中村 政則 著 『昭和の歴史② 昭和の恐慌』 小学館ライブラリー
- ・『週刊日録20世紀 1930』 講談社

◎ 浜口雄幸内閣は、なぜ金解禁を行ったのか？

1 1920年代の日本

◇政治面

した時期

◇経済面

した時期

◇外交面

した時期

2 金本位制(金解禁)に対する世界の動き

	禁止	解禁	再禁止
日本			
アメリカ			
イギリス			
フランス			
イタリア			
ドイツ			

日本がなぜ金解禁できずにいたのか

3 浜口雄幸の演説

我が国今日の重大なる問題は、金の輸出禁止を解除するという問題であります。大正3年、① [] の勃発いたしまするやヨーロッパの各国、続いて米国もまた金の輸出禁止を断行したのであります。然るに貿易の関係等のため外国に段々金が流れ出て参りますれば、その分の正貨準備は次第に減少いたしまして、その減少の程度が甚だしくなりますれば次にその国の貨幣制度に対する内外の信用がなくなり、貨幣の制度の基礎が動揺するにいたりまして財界に非常なる混雑を生ずるようになるのでありますから、各国とも金の輸出を禁止するという② [] をとるにいたったのであります。

我が国におきましても大正6年に米国が金の輸出禁止を行いまするや遂に止むことを得ず同年9月に大蔵省令を以て金の輸出制限、俗に申すところの金の輸出禁止を行ったのであります。

我が国におきましても金の輸出を禁止いたしましたる結果、財政が③ [] して止まないということと、国民の消費が衰えないこととあいまって物価の不自然なる④ [] を招き、為替相場の急激なる変動を生じ、為に⑤ [] はあたかも投機事業のようになりまして大いにその発達を妨げられ、それがために一般産業の基礎を不安ならしめ、久席にわたって政財界に非常なる⑥ [] を招きましたのみならず、外国に対する帝国の⑦ [] を失墜するに到りましたことは、今日お互いが痛切に感ぜ入るところであります。

したがって、我が国経済界の難局を打開し、その立て直しをするがためには、金の輸出禁止を解除し、すみやかに財界の⑧ [] を期することは、何より基本であるということは、天下何人も異はないところであろうと存するのであります。政府は、この現状に鑑みまして、速やかに金の輸出禁止を解除するという決心をいたしたのであります。

4 金解禁の目的

①
②
③
④

◎ 金解禁は、どのように進められ、どのように終焉を迎えたか

5 緊縮政策の実施

--

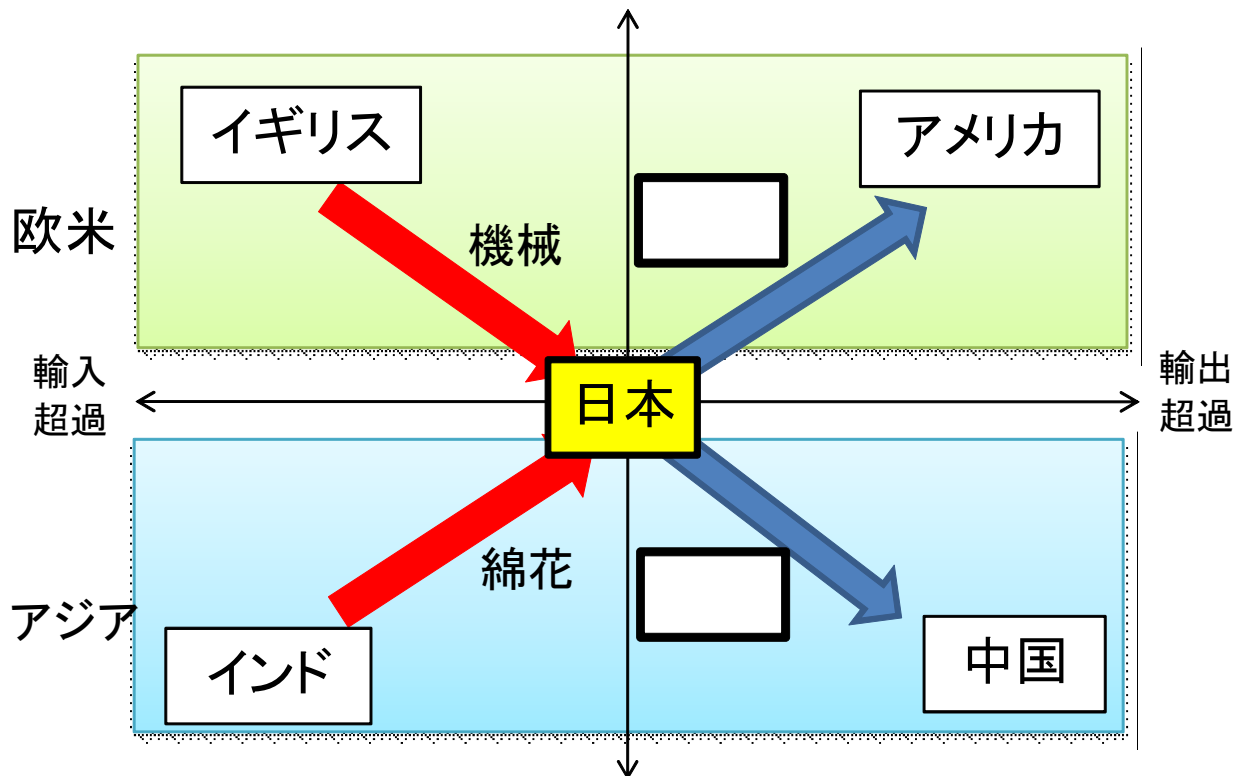
6 金解禁の断行

(1) 旧平価解禁の理由

①
②

(2) 世界恐慌の中での解禁 → 昭和恐慌へ
→ 輸出の不振，価格の暴落，正貨大量流出

※特に 農村部は悲惨な状況（欠食児童，女子の身売り）



7 金解禁政策の終焉

(1) 浜口雄幸狙撃事件(1930.11) → 若槻内閣後継，井上蔵相続投

(2) 重要産業統制法(1931.4) → 国際競争力拡大がねらい

(3) イギリスの禁輸出再禁止(1931.9) → 日本に衝撃

(4) 満州事変勃発(1931.9) → 軍縮暗礁へ

(5) 若槻民政党内閣総辞職(1931.4) → 犬養毅内閣(政友会)へ 蔵相：高橋是清

8 1930年代の日本

① 政治面

- 政党政治の崩壊(五・一五事件)
→軍部強大化, 国家主義の高揚

② 外交面

- 世界から孤立←満州国, 国際連盟脱退

③ 社会・経済面

- 世界に先駆けて恐慌脱出←高橋財政
- テロの嵐…井上準之助も殺害(血盟団事件)

※ 産業合理化の推進が背景に

◎ 浜口内閣について、現在と比較しながら検証してみよう

9 浜口内閣の金解禁への想い

4 金解禁の目的④ に記入しよう

10 現代からみた浜口内閣

○ 井上準之助の述懐

「金解禁の成敗如何は、後生の歴史が語るであろう。自分たちのやったことがよかったか悪かったか、あるいは政友会のゆき方が正しいのか、自分は疑わしくなってきた。」
井上準之助 談 『昭和大蔵省外史』

さて、あなたなら浜口内閣をどのように評価しますか…